

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
1	年次有給休暇	最大残日数40日管理可能					
2		最大繰越日数20日を超えて付与・自動繰越等の管理可能 (行政系のみ局間異動をした1年目について最大25日。ただし、繰越日数の最大は20日となる)					
3		前々年度分から消化することが可能					
4		繰越日数の自動計算が可能					
5		職種により繰越が年度単位と歴年単位で分けて可能					
6		年間出勤率が8割に満たない職員の年次有給休暇の残数の繰越をしないことが可能					
7		年間出勤率が8割に満たない職員の年次有給休暇の残数の繰越はさせないが、付与は可能					
8		育児短時間勤務から正規勤務に変更になった場合、繰越日数が自動で換算される 例) 1日3時間55分勤務だった者が、1日7時間45分勤務に勤務体系を変更した場合に、年次有給休暇の残りが2時間だった時は、0.5日と換算する(約4時間勤務の内の2時間なので、0.5日とみなす)。					
9		正規勤務から育児短時間勤務に変更になった場合、繰越日数が自動で換算される (日数に変更がでないようになっているか。日数が増えたりしないか) 例) 1日7時間45分勤務だった者が、1日4時間55分勤務に勤務体系を変更した場合に、年次有給休暇の残りが2時間だった時は、 $2 \div 7.75 \approx 0.3$ 日とみなす(小数第二位を四捨五入)。					
10	年次有給休暇(半日)	職種により取得可能かどうか切り分けることが可能 (行政系のみ半日単位で取得が可能)					
11	年次有給休暇(時間)	年次有給休暇を時間数で管理可能					
12		取得時間数について上限なしで取得可能					
13		職種により1日の換算時間を変更することが可能 (教員は7時間45分、行政系は8時間)					
14		残日数すべてを使用する場合のみ分単位で取得可能					
15		育児短時間勤務等の時短職員については、1日の換算時間の調整が可能。 (1日3時間55分勤務なら1日4時間で換算。4時間休で1日消化)					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
16		育児短時間勤務から正規勤務に変更になった場合、繰越日数が自動で換算される 例) 1日3時間55分勤務の場合に、2時間残っていた時 2時間÷4時間=0.5日 7時間45分×0.5日=3時間52分 → 4時間（時間単位に切り上げ）					
17		正規勤務から育児短時間勤務に変更になった場合、1日未満の端数について自動で換算される 1日未満の端数時数÷1日の換算時間数 →7時間÷7時間45分=0.9日。 →4時間×0.9=3.6時間（1日3時間55分勤務）→4時間（時間単位に切り上げ）					
18	妊娠出産休暇	期間を設定して休暇の取得が可能					
19		期間を入力すれば、1日ずつ入力せずに勤怠データに反映可能					
20		最低の6週6週を切る日数の時、警告が出る					
21		妊娠に関する証明書データを添付可能					
22		出産予定日を入力し、週数を選択すると自動で期間の計算が可能					
23		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
24		生理休暇	付与単位は日単位で取得可能				
25		1生理周期につき、引き続き2日以内までは給与の減額免除対象とすることが可能。 →生理休暇（有給）と生理休暇（無給）の区別ができれば代替可。					
26		生理休暇と年次有給休暇（時間）が重複した場合は、年次有給休暇の取得もできつつ、生理休暇も取得が可能。（午前年次有給休暇を取得し、午後（4h）生理休暇を取得した場合も1日として扱う。					
27		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
28	子どもの看護休暇	暦年単位で残日数の管理が可能					
29		5日間もしくは10日間（子が複数いる場合）付与可能					
30		残日数管理が可能。					
31		子が複数いるかどうか区分を設定することで、付与日数の自動計算が可能					
32		取得した事由について申請画面上で選択することが可能（負傷・疾病、予防接種、健康診断、その他）					
33		取得した事由ごとに日数・回数を集計することが可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
34		年度途中で子の人数が変わった場合の対応 4月に子が中学生になった場合、10日付与が5日となる。 3月時点で6日取得、4日取得それぞれの場合、6日取得は残が4日、4日取得は残が5日となる。					
35		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
36	子どもの看護 休暇 (時間)	時間数で管理可能					
37		取得時間数について上限なしで取得可能					
38		職種により1日の換算時間を変更することが可能 7時間45分を1日として換算。					
39		残日数すべてを使用する場合のみ分単位で取得可能					
40		児童が12歳に達した場合に取得できないよう制御可能（原則は12歳。小学部過程を修了していない場合に最大15歳など設定により変更できるとよい）					
41	介護休暇	開始日から6か月以内であれば何回でも取得が可能					
42		初回取得時については2週間以上の取得が必要（チェック機能）					
43		6か月以内に180日取得していない場合は、通算180日となるまで2回更新が可能					
44		申請画面にて要介護者を選択して申請が可能 （配偶者orパートナー、本人の父母、子、配偶者の父母、祖父母、兄弟姉妹、孫、同一世帯に属する者）					
45		申請時に設定した要介護者ごとに日数・回数を集計することが可能					
46		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能					
47	介護休暇 (時間)	時間単位で取得が可能					
48		分単位での取得はできない					
49		休憩時間と重複する場合は、介護休暇（時間）に含むことが可能					
50		短期の介護休暇以外の休暇と併用した場合に、1日勤務しないことになる場合は設定されない					
51		短期の介護休暇と併用した場合に、1日勤務しないことになる場合は設定される					
52		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能					
53	短期の介護 休暇	暦年単位で残日数の管理が可能					
54		5日間もしくは10日間（要介護者が複数いる場合）付与可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
55		残日数管理が可能					
56		申請時に事由を選択して申請することが可能 (介護、通院等の付添、手続きの代行、必要な世話)					
57		取得した事由ごとに日数・回数を集計することが可能					
58		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
59	短期の介護 休暇 (時間)	時間数で管理可能					
60		取得時間数について上限なしで取得可能					
61		7時間45分を1日として換算可能					
62		残日数すべてを使用する場合のみ分単位で取得可能					
63		短期の介護休暇以外の休暇と併用した場合に、1日勤務しないことになる場合は設定されない					
64		短期の介護休暇と併用した場合に、1日勤務しないことになる場合は設定される					
65	介護時間	最大3年間の期間取得が可能					
66		30分単位で取得が可能					
67		1日最大2時間まで取得が可能					
68		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
69		勤務の始めまたは終わりにおいて取得可能					
70		介護休暇と併用ができないよう制限がされる					
71		他の休暇と併用することで1日勤務しないことになる場合、取得できないよう制限がされる。					
72		介護時間に引き続く年次有給休暇が取得できないよう制限がされる					
73		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
74		申請時のミスを減らすため、時間数や勤務開始か終了どちらを選択するかなど誘導(ナビゲーション)機能を有する。					
75	公民権行使等 休暇	必要と認められる期間(制限なし)取得が可能					
76		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
77	慶弔休暇 (結婚休暇)	最大7日間取得が可能					
78		最大値を超えて取得できないよう制御可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
79		7日間の計算には週休日と休日を含んで計算可能					
80		結婚の日を設定することで6か月間以内という取得期間の自動計算が可能。 (結婚の日：婚姻の届出日or結婚した日のいずれか早い日)					
81		結婚休暇の承認を取り消し後、再度の申請時には取消理由や再申請であることを付記できること。					
82		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
83		申請時のミス減らすため、取得日数や取得期限について誘導（ナビゲーション）機能を有する。					
84	慶弔休暇 (忌引)	死亡した人との関係により付与する日数を自動計算可能					
85		指定した日より引き続いて、日単位で付与可能					
86		取得日数の計算には週休日と休日を含んで計算可能					
87		遠隔地に旅行する場合の往復に要する日数を加算することが可能					
88		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
89		申請時のミス減らすため、故人との関係による取得日数や遠隔地旅行による日数加算などについて誘導（ナビゲーション）機能を有する。					
90	慶弔休暇 (父母の追悼)	最大1日間取得が可能					
91		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
92		遠隔地に旅行する場合の往復に要する日数を加算することが可能					
93		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
94		申請時のミス減らすため、取得日数や遠隔地旅行による日数加算などについて誘導（ナビゲーション）機能を有する。					
95	妊娠症状 対応休暇	最大10日間取得が可能					
96		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
97		残日数管理が可能					
98		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
99	妊娠症状 対応休暇 (時間)	時間数で管理可能					
100		1日の換算時間は7時間45分として計算可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
101	妊娠初期等における休養	1週間または2週間取得が可能					
102		1週間または2週間単位での取得のみ制御が可能 (日単位で取得ができないように制限できる)					
103		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
104	早期流産休暇	最大7日間取得が可能					
105		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
106		7日間の計算には週休日と休日を含んで計算可能					
107		流産した日を管理でき、引き続き7日間の自動計算が可能					
108		病気休暇と併用ができない。 ただし、病気休暇が流産の翌日から起算して6日間で終了するときは7日間取得可能。 (病気休暇が4日なら早期流産休暇は3日取得可能)					
109		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
110	母子保健健診休暇	時間単位で取得が可能					
111		回数にて残管理が可能 妊娠中に10回まで(妊娠中に9回と出産後1回も可)					
112		妊婦通勤時間と連続して取得できない					
113		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					
114	妊婦通勤時間	1日最大60分取得可能					
115		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
116		取得単位として、15分単位で取得可能。30分、45分、60分					
117		勤務の始め又は終わり又はそれぞれで取得することが可能					
118		勤務時間が4時間以下となる日は、30分以内で1回のみ(始めか終わり)取得可能					
119		休憩時間と重複する場合は、妊婦通勤時間に含まれず、それぞれ集計されること。 例) 15:30~16:15休憩、15:45~16:45妊婦通勤時間と設定した場合、休憩時間は60分、妊婦通勤時間は30分と計上。					
120		年次有給休暇(時間)と連即して取得できない					
121		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容(文言)については区で自由に設定することが可能。					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
122		申請時のミスを減らすため、取得時間数の組み合わせや公共交通機関を利用しているか（徒歩・自転車通勤では申請不可）などについて誘導（ナビゲーション）機能を有する。					
123	育児時間	1日最大90分取得可能					
124		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
125		取得単位として、15分単位で取得可能。30分、45分、60分、75分、90分					
126		勤務時間が4時間以下となる日は、45分以内で1回のみ（始めか終わり）取得可能					
127		休憩時間と重複する場合は、育児時間に含まれず、それぞれ集計されること					
128		児童が生後1年6か月に達した場合に取得できないよう制御可能					
129		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
130	出産支援休暇	最大2日間取得可能					
131		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
132		残日数管理が可能					
133		配偶者の出産の直前から出産の日翌日まで起算して2週間以内に取得可能					
134		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
135	出産支援休暇（時間）	1時間単位で取得が可能である					
136		7時間45分を1日と換算する					
137	育児参加休暇	最大5日間取得可能					
138		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
139		残日数管理が可能					
140		配偶者の出産の日翌日から起算して8週間以内に取得可能					
141		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
142		申請時のミスを減らすため、最大取得日数や取得可能期間などについて誘導（ナビゲーション）機能を有する。					
143	育児参加休暇（時間）	1時間単位で取得が可能である					
144		7時間45分を1日と換算する					
145	病気休暇	同一疾病につき最大90日間取得可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
146		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
147		残日数管理については、最初に病気休暇を取得した日から1年間の期間で管理可能					
148		別疾病の場合にあらためて90日間取得可能					
149		疾病ごとの病気休暇取得日数をシステム上にて確認することが可能。					
150		申請時に疾病の区分を選択することが可能 不妊治療、その他					
151		取得した疾病区分ごとに日数・回数を集計することが可能					
152	病気休暇 (時間)	時間数で管理可能					
153		疾病の区分を登録可能 人工透析、肝炎、がん、不妊治療等、その他					
154	ボランティア 休暇	最大5日間取得可能					
155		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
156		暦年単位で残日数の管理が可能					
157		ボランティアの区分を登録可能 被災者支援、社会福祉施設、要介護者支援、国際交流活動、地域の子どもの健全育成					
158		取得した疾病区分ごとに日数・回数を集計することが可能					
159		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
160	ボランティア 休暇 (時間)	1時間単位で取得が可能である					
161		7時間45分を1日と換算する					
162		分単位での申請も可能とするが、取得時間は1時間として計上できる					
163	災害休暇	最大7日間取得が可能					
164		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
165		7日間の計算には週休日と休日を含んで計算可能。 例) 土曜日に住居が損壊したら、土日月火水木金					
166		現住居が滅失・損壊した日を管理でき、引き続き7日間の自動計算が可能					
167		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
168	夏季休暇	5日間の取得が可能					
169		残日数の管理が可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
170		取得期間を設定することが可能（7/1～9/30）					
171		取得期間について特例措置を考慮し、年度ごとに変更することが可能					
172		半日や時間単位で取得はできない					
173		5日間のうち何回に分けて取得したか確認が可能					
174	長期勤続休暇	勤続年数により取得できる日数を管理可能 （申請時に勤続年数を入力することで判定できる）					
175		勤続15年に達する場合は、連続して2日以内取得可能					
176		勤続25年に達する場合は、連続して5日以内取得可能					
177		週休日・休日等を含んで換算可能 例）木曜から取得したら、木金土日月の5日間。					
178		勤続15年・25年に達する年度の1月1日から2年間の期間で取得が可能					
179		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
180	職務専念義務の免除	制限なく取得可能 上限日数なし、残日数管理なし					
181		申請事由（根拠規定）について登録・管理可能 ※種類が多岐にわたるためメモでも可。					
182		取得した申請事由（根拠規定）ごとに日数・回数を集計することが可能。					
183		申請画面上に、当該休暇についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
184	育児休業	期間を設定して休職の取得が可能					
185		期間を入力すれば、1日ずつ入力せずに勤怠データに反映可能					
186		日数の上限制限がなく、最大3年間の取得が可能					
187		延長や2回目の取得が可能。					
188		育児休業承認報告書のデータを添付可能					
189	部分休業	1日最大2時間取得可能					
190		最大値を超えて取得できないよう制御可能					
191		取得単位として、30分単位で取得可能					
192		勤務の始め、終わり、始め+終わりの3パターンのみ取得可能					
193		休憩時間と重複する場合は、部分休業に含まれず、それぞれ集計されること					
194		部分休業に引き続く年次有給休暇が取得できないよう制限がされる					
195		他の休暇と併用することで1日勤務しないことになる場合、取得できないよう制限がされる。					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
196		児童が小学校就学始期（6歳になって最初の3/31）まで取得が可能。					
197		申請画面以上に、当該休業についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。					
198	育児短時間勤務	3時間55分勤務×5日（週19時間35分）の勤務体系が作成可能					
199		4時間55分勤務×5日（週24時間35分）の勤務体系が作成可能					
200		7時間45分勤務×3日（週23時間15分）の勤務体系が作成可能					
201		7時間45分勤務×2日+3時間55分勤務×1日（週19時間25分）の勤務体系が作成可能					
202		学校（出先部署）で勤務体系を選択することが可能					
203		児童が小学校就学始期（6歳になって最初の3/31）まで取得が可能					
204		超勤代休時間	月60時間超過勤務を超えた場合に取得可能				
205	7時間45分または4時間で申請						
206	年次有給休暇（時間）と併用して取得する場合は、上記時間数以外の時間数でも取得可能。 4時間：年次有給休暇2時間+超勤代休時間2時間 7時間45分：年休1時間+超勤代休時間6時間45分						
207	年次有給休暇と組み合わせた場合についても、合計時間数は7時間45分または4時間						
208	取得期間としては、60時間を超過した月の2か月後まで						
209	過去2か月分の超勤代休時間を合算することが可能						
210	申請画面以上に、当該代休についての説明を表示することが可能。説明内容（文言）については区で自由に設定することが可能。						
211	事故欠勤	欠勤の事由として管理ができる					
212		給与減額免除にするかどうか選択することが可能					
213		事故欠勤の事由ごとに、内部的に給与減額免除とするかどうか設定することが可能					
214		申請の事由の選択をさせることが可能 （自由記載ではなく、プルダウンとして項目を用意できること）					
215	大学院修学休業	休職の事由として用意できる					
216	配偶者同行休業	休職の事由として用意できる					
217	週休日の振替	教育職員は前2月または後4月の範囲で取得が可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
218		教育職員以外は前2月または後2月の範囲で取得が可能					
219		期間は勤務していた日付に単純に月数を足すことができる。 例) 6月4日→前: 4月5日、後: 8月3日。 7月31日→前: 6月1日、後: 9月30日					
220	半日勤務時間の割振り変更	割り振る時間数は4時間、3時間45分で可能					
221		教員以外については、半日勤務の振替ができないように制限ができる。					
222	超過勤務	時間帯や時間数に応じた割増率の集計が可能					
223		150/100など深夜割増か月60時間以上における125/100なのか分けて集計が可能。					
224	超過勤務命令	教員についても超過勤務命令をシステム上行うことが可能					
225		超過勤務の項目を選択することが可能。 「生徒の実習に関する業務」「学校行事に関する業務」「教職員会議に関する業務」「非常災害等やむを得ない場合に必要業務」					
226	調整時間	時間数の計算結果から日にち単位での申請が可能					
227		時間数の計算結果から時間単位での申請が可能					
228		計画をもとに算定した時間数をメモとして入力可能					
229	シフト	再任用短時間や非常勤教員など週休日を学校にて任意に設定が可能。					
230	残日数管理	休暇ごとに年か年度単位で残日数を管理するか選択が可能					
231		残日数管理が可能な休暇数に制限がない					
232	モバイル	ログイン時に多要素認証が可能 (生体認証 or SMS)					
233	打刻・申請	打刻時の位置情報の取得が可能					
234		モバイル端末から申請の承認が可能					
235	出勤簿	年度(4月～翌3月)の出勤・休暇状況を1枚の帳票として出力が可能。					
236		病休取得者の出勤簿を一括で出力することが可能。 (条件にて絞り込みが可能)					
237	出張	出張の申請が可能					
238		承認者が申請を承認することで、自動で勤怠データに反映させることが可能					
239		当該日に打刻がない場合も、出張申請をすることでエラーが発生しない					
240	宿日直勤務	日をまたいでいる場合にも、1日の勤務としてみなすことが可能					
241	権限付与	承認者以外の申請に対する代理承認が可能					
242		代理承認が可能なユーザーを指定することが可能					

No	項目	要件	標準	カスタマイズ	運用対応	対応不可	特記事項
243	各種申請	各申請画面にて、必須項目と任意項目を項目ごとに設定することが可能					
244		各申請画面にて、項目の配置順を杉並区にて設定することが可能					
245		兼務している職員については、本務校と兼務先のそれぞれについて、承認ルートを選択することが可能					
246	データ エクスポート	勤怠情報として入力した項目はすべてデータ出力が可能					
247		任意に項目を選択して出力する機能を有すること。 項目すべて出力してから、Excel等で加工するという代案は不可。					
248		出力時に、ソート順を設定することが可能。 例) 所属コード順に出力。					
249		出力時に、項目の値により条件を付加して設定することが可能。 例) 超過勤務時間数が20時間以上					
250		ソート順や項目の値による条件設定など、複数の条件を設定して出力が可能。					
251		出力項目の選択内容やソート順等の条件をパターンとして保存することが可能。 次回以降に、パターンを選択することで条件を設定し直す必要がない。					
252	データ インポート	CSVファイルまたはExcelファイルをインポートすることでマスタの更新が可能。 ※システムの機能として用意。SE作業による代替案は不可。					
253		職員番号など一意のコードとの紐づけにより、特定の職員情報のみについてマスタ更新が可能					
254		インポートした結果を表示することが可能					
255		インポート時にエラーが発生した際は、エラーの該当箇所について確認することが可能。					
256		インポート時にエラーが発生した際は、全件中止にするか、エラーが発生しなかったデータのみ反映するか設定により選択が可能。					
257		履歴として加算するか、最新の履歴を上書きするかインポートする際に選択が可能。 ※インポート処理をする際の条件画面等で、都度切り替えが可能。					
258		空白の情報をインポートすることで履歴情報を削除することが可能					